

なものなのだ。税金という形で、皆が少しづつお金を出し合うからこそ、誰しもが道路を利用し、学校で学ぶことができるのだと分かり、なるほど、税金とはよく考えられたシステムなのだと改めて感心させられた。

では、そうして税金の恩恵に浴しているはずなのに、なぜ大人は「税をとられる」などと口癖のように言うのだろうか。さも税金を払うことが自らに対して損かのようにある。確かに自分が汗水を垂らして稼いだ収入を徴収されるのだから、否定的にとらえる気持ちもすごく理解できる。でも、税金が高いから資産が増えないという理論は間違えているのではないだろうか。実際に、政府によって金持ちにしてもらったことはないし、貧乏にされることもありえない。だから、多くの税金を払うことは成功者の証だと考える方がよいのではないだろうか。税金を払うことはすなわち、誰かのために約に立てた証でもあるのだ。それは巡り巡って自分にも返ってくるのだ。

目先の利益に捕らわれず、助け合いながら成
り立つ社会、それを支えているのが税金だっ
たのだ。

税金を払えることに自然と感謝の念が湧き
上がる。これが本来の在るべき姿ではないだ
ろうか。仮にそれが当たり前の社会になった
としたら、日本はどんなに住みよい国になる
だろうか。そのためにはまず、税金が皆に利
益をもたらすものだということをしっかり幼
い頃から教える必要があると思う。そしてそ
の心を踏み躪らないように、税金の使い方を
皆で真剣に考えていくことが求められている
と感ずる。